

プロジェクト名称

いくべっ！福島支援プロジェクト

メンバー：篠木万理恵（リーダー）、橋本祐樹、深町梢、海山夏喜
御屋敷勇介、登崎涼、丹野怜哉、高杉悠那、半田聡

プロジェクト活動概要

東日本大震災から1年が経過したが、被災地の復興には、まだまだ時間がかかるのが現状である。特に福島県は放射線量という目に見えないものを相手にしており、他県と比較しても復興の遅れが顕著である。

今年の4月、国は放射能基準値の改正を行った。福島県の農家の方々は放射線量を下げするために様々な努力や工夫を行っているが世間には広く知られていないのが現状である。そこで私たちはこの部分にスポットを当てた情報の発信をしていこうと考えている。それと同時に、福島を応援したいと考えている方々のために、福島県産の農産物を販売する場を設けることで、福島支援をする機会を提供していきたい。また消費者の方にアンケートをとり、消費者側の意見を収集し、生産者側に提供することで、消費者と生産者の意識の共有のサポートをしていきたいと考えている。

活動状況報告 & 活動写真など【活動期間：2012年6月18日～9月30日】

5/10～12: 第1回現地視察

この視察では福島県庁・消費者センター・会津坂下町などを回り今年度の福島県における風評被害の状況を確認することを大きな目的として行った。そこで言われたことは震災後から様々な分野で福島産のものが敬遠され、ものが売れないという状態が続いているということである。一方で会津地方の観光業は回復してきており、農作物の中には、価格が震災前と変わらなくなってきたものもある。しかし依然として価格が大暴落している農作物もあり、収入が減り苦しんでいる農家の方々が特に中通り地方を中心にいることも現実である。これらを踏まえて、今季は中通りの農家にスポットを当てることで活動を行うという方向性を確認した。



<消費者センター>



<会津坂下町>



<福島県庁>

5/20: 大宮祭

5月に行われた大宮祭では、味噌田楽を販売した。味噌は去年の現地視察でお世話になった会津坂下町の日黒麴店のものを使用した。全て完売し、多くの方に福島産のものを口にさせていただくことができた。また、学生プロジェクトの活動に関心を示してくださる方もいた。

大宮祭の成果としては、

- ◆福島産のおいしい食材を紹介することができた。
- ◆多くの方にプロジェクトの活動を知っていただくことができた。

今後の課題として

- ◆消費者側からの声を生産者に届ける取り組みがあると良い。

ということが挙げた。今後はアンケートなども活用し、現地の生産者が必要とする消費者の声、特に現地からは離れた関東圏の消費者の声を届けながら、本プロジェクトの活動をより一層知っていただく機会を作っていきたい。



<販売の様子>

7/8: STUDY FOR TWO 「第一回 ここが聞きたい! 講演会&活動発表懇親会」

7月8日に文京区区民センターにて、東洋支部&東洋大学2部ESS主催の、各地で活動している学生・社会人団体の講演会・活動発表懇親会に参加した。

この講演会・活動発表懇親会には、私たち「いっくべっ! 福島復興支援プロジェクト」のほかに、ハビタットフレンズ三島、able For Two UA、STUDY FOR TWOなど合計8団体が発表を行った。

この講演会での成果は

- ◆発表の機会を得ることが出来て、福島の実情・情報を発信することが達成できた。
- ◆他団体の発表を実際に聞くことで、参考にすることができる点を得ることができた。
- ◆自分たちの知らない様々な活動を知ることができた。

課題としては、まったくこの活動を知らない人に自分たちの活動を広める際、申請会のようなプレゼンではなく、デザイン性の高いpptや、聞いている人に問いかけるような発表をすることが良いのではないかと知ることができたので改善していきたい。また、まだまだ交流にためらいが見られた部分もあったので、コミュニケーション能力の向上に尽力していきたい。



<左: 団体との集合写真>



<上: 発表風景>

7/13～15: 第2回現地視察

この視察では現在の農家の状況を知ること・東大宮サマーフェスティバルで販売する桃・きゅうりの買い付けを大きな目的として福島県伊達市にある農家の関根幹男さんの畑で見学を行った。ヒアリングの結果を昨年と今年の事で分類し、下記に一例を示す。

【昨年】

- ◆桃の市場価格が例年の**10分の1**
- ◆高圧洗浄機で一気に除染
- ◆福島産の野菜を買うも、帰宅途中で高速の**ゴミ箱に捨てる**という応援買いが起こる

【今年】

- ◆農協に検査を依頼し、出荷前に計2～3回は検査
- ◆検査は1品目ごとに行うようになった
- ◆地元の新聞では線量の検査結果を載せている(ほとんどが**検出せず**)が、関東圏では報道されない

また、私たちの活動に関しては、アンケートを通じて、県外の人々が福島に対してどのようなイメージを持っているのかを知りたい、出荷されたものは、複数回の検査を経て安全と判断されたものだということと呼び掛けてほしいといったようなことを中心に活動を行ってほしいという激励の御言葉を頂いた。



＜お世話になった関根さん＞



＜ヒアリングの様子＞



また福島県相馬市では、東京農業大学が行っている作付に関する研究をお手伝いさせてもらった。昨年、相馬市では基準値以上の線量が測定されたため、一部の田畑では現在も作付ができない状況である。そこで、東京農業大学のプロジェクトではそのような田畑での作付再開のために、放射性物質やセシウム濃度の測定、作土の深さの調査や土壌採取を行っている。また、そこで実験的に作物を育てることで、土壌中の放射線量と農作物に含まれる放射線量がどう関係しているのかなども調べる予定で、最終的には、調べた結果を一般の方にも分かる形でまとめるという。



＜計測器＞



＜計測風景＞



＜集合写真＞

実際に体験してみると、一つ一つの作業がとても地道な作業であり、活動を行っている皆さんの日ごろの苦勞を感じた。また、目的は復興支援と同じではあるが、異なるアプローチをしている団体と交流することで、復興に対する意識が変わり、今後の活動の幅が広がっていくのではないかと感じた。

8/3～4: 東大宮サマーフェスティバル

昨年に引き続き、東大宮サマーフェスティバルに出店をさせて頂くことができた。昨年は会津坂下町産のお米を使用したおにぎりを販売したが、今年は、福島県伊達市のみらい百彩館「んめ～べ」から仕入れた福島産の桃とキュウリを販売した。同時に販売と並行して、買っていただいたお客様に写真撮影をお願いし、笑顔ポスターを作成した。このポスターは、「んめ～べ」やご協力頂いた福島農家の方々に送らせていただき、消費者の笑顔やこちらの生の反応を伝えた。

また昨年度に引き続きアンケートも実施し、意識調査を行なった。この調査結果から分かったこととしては、震災から1年が経過したが依然として多くの人が支援したいという気持ちを持ち続けていることである。今後も支援できる場を数多く提供していこうと考えている。



<桃とキュウリの販売>



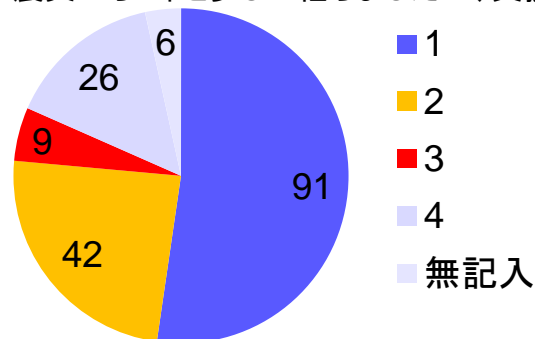
<笑顔撮影>

<意識調査>

<左: 笑顔ポスター完成品>

※アンケート一部抜粋※

震災から1年と少しが経ちましたが、支援活動に対してどのような考えやイメージがありますか？



- 1: 以前よりも支援したい気持ちが強くなった
- 2: 興味が薄れてきた
- 3: そろそろ支援は十分だと感じている
- 4: その他

その他の回答

- ◆ 最近の情報を耳にしない
- ◆ 支援が段々薄くなってきた
- ◆ まだまだ不十分
- ◆ 支援に終わりはないので、継続して行くべき
- ◆ 微力ながらも自分のできる範囲で支援に貢献したい
- ◆ メディアが真実を伝えて民意を動かすべき
- ◆ 影響を受けているのは被災地の人だけではない
- ◆ 昨年の思いを忘れてはいけない

8/4: Shirakawa week 14days

このイベントは福島県白河市で7月30日～8月12日に2週間にわたり開催されたイベントである。iupsという福島県の学生で構成された任意団体が主催者であり、さまざまなイベントを開催しているなか、私たちは8/4に行われた東北を支援する団体が集まり活動紹介や今後の方針などを話し合う学生フォーラムに参加した。参加した目的としては大きく2つある。

- ◆他団体との交流を図ることで更なる活動のヒントを得る機会をつくる
- ◆メディアや福島、東北に住む人たちに周知を広めることにより、相互扶助の関係性を構築する

参加させて頂くなかで分かったこととしては私たちの活動と類似している団体もあり、そのような方々と知り合うことで今後の活動の大きな手助けになると感じた。



<参加者との集合写真>



<発表風景>

8/25～26: 麻布十番納涼まつり

東京・麻布十番の商店街にて、毎年開催される「納涼まつり」に参加した。この祭りには昨年から私たちの活動にご理解・ご協力いただいている会津坂下町の方々が参加するため、そのお手伝いや正しい福島の情報を知ってもらうという活動を兼ねて参加させて頂いた。当日は、福島県の会津坂下町の方々と共に、日本一に輝いた地元の銘酒「飛露喜」や地元産の馬肉を使った「さくら焼肉」などを中心に販売した。多くの方々から「おいしかった」という声が聞こえ、福島県産のものに対する不安感は昨年ほどではなくなったと感じた。多くの人たちが躊躇いなく福島県産のものを購入したり、実際に現地に出向いたりしてくれるように活動の継続が必要である。

昨年の視察で、地元の方々と「何かを一緒に行う」をことが一つ大事なことだと言われた。このことを今回のイベントを通して、一緒に汗を流して取り組めたことは、これからの活動に向けての大きな架け橋となるだけでなく、協力体制を作ることが出来た。今後も様々な企画を通して、地元の方々と連携することで交流の幅を広げたい。



<会場設営>



<販売の様子>



10/7: 日帰りツアー実施
11/2~4: 芝浦祭(磯辺焼き販売・会津坂下町の方との共同販売)
12月以降: 来年度方針決定、引き継ぎ、メンバー募集、報告書作成

震災から一年半が経過した。それに添うように私たちの活動も一年半を迎えようとしている。昨年からは活動をしていく中で多くの方々が福島を支援してくれていることを身に染みて感じている。東大宮サマーフェスティバル・芝浦祭などを通して多くの方々には福島県産の食を食べてもらい、現地で聞いた正しい情報の発信を行うことを行ってきた。今年はこれに加え、実際に福島に行く「日帰りツアー」を実施することで福島をより身近に感じてもらい、私たちが昨年からの目標としてきた**人と人とのつながり**を達成できると考えていえる。

右側に示しているものがツアー用ポスターである。ツアー内容は以下の通りである。

◆震災から一年以上が現在でも完全に放射線量に関する問題がぬぐえたとは言い難い。実際に検査現場を見てもらうことで、いかに微量な数値で測定を行っているか見てもらうことで福島の食は安全だと改めて知ってもらう場とする。

◆10月は福島県では桃の収穫時と重なる。「果物王国・福島」を知ってもらう絶好の機会と捉え、果物狩りを実施する。

◆福島は飯坂温泉や湯本温泉など温泉の名所が多い。旅の最後にゆっくりとお湯につかることで旅の疲れを癒してもらう。

いくべっ!
福島ツアー!

こんにちは! 芝浦工業大学 学生プロジェクト「いくべっ! 福島支援プロジェクト」です。私たちは福島県の風評被害の低減を目標に日々活動しています。今回、多くの方に福島に実際に訪れてもらい、福島の良さ、美味しさを知って頂くために、日帰りツアー「いくべっ! 福島ツアー!」を企画しました!是非ご参加ください!

ツアー日 2012年 10/7(日)	先着 30名様	交通費 無料!! <small>※食事代・ぶどう狩り代は実費</small>
---------------------------------	-------------------	---

8:00 大宮駅発 福島市内検査施設見学 どのようにして放射線量は測られているのか? 疑問にお応えします!	 ぶどう狩り 福島美味しいぶどうをお腹いっぱい食べましょう!	22:00 大宮駅着 温泉&交流会 福島の方との意見交換会です! リアルな福島に触れましょう!
--	--------------------------------------	---

お申込み・お問い合わせ方法

- ①メールでのお問い合わせ r10072@shibaura-it.ac.jp
- ②電話でのお問い合わせ 090-4438-6573 (担当・深町)
- ③Facebookでのお問い合わせ

「いくべっ! 福島支援プロジェクト」にメッセージ
詳しい情報は③のFacebookで更新します!ご確認ください!

定員次第
締切終了!

※写真はイメージです。※スケジュールに変更がある場合がございます。ご了承ください。

またツアーだけでなく昨年に引き続き、芝浦祭への出店も行う。ここでは現地の方々を呼ぶことで共同販売を考えている。消費者の立場としても生産者の顔が見えるほうが安心である。また、気になる疑問なども聞くことができ、こちらも現地の生の正しい情報発信が可能な場を設けることができる。当面の目標としてはこの2つの大きなイベントを成功させるとともに、福島を正しく理解してもらうことである。